

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・毎時間の「ねらい」の提示と1時間を見通した「板書」をもとに、基礎・基本の定着と、生きてはたらく言葉の力を身に付ける。	中間評価		最終評価	
		・教室や廊下の掲示を工夫（毎月変えるものとそうでないものの区別）し、落ち着いた学習に取り組める雰囲気づくりに配慮する。				
学級（教科）経営						

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況（10月）	課題（10月）	改善に向けた取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況（4月）	課題（4月）	改善に向けた取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	文字に関しては、繰り返しテストを行い、定着してきている。授業中、意図的にグループ活動やペア活動などの活動を設定し、話し合ったり、発表したりすることで、話す聞くの力を高まっている。	日本語学級に8名在籍していることもあり、「書く」ことに関して課題としている児童が多い。「読み」は、繰り返しの音読で習熟してきているが、個人差があり課題が残る。	「書く」活動を積極的に取り入れる。他教科とも関連させて、文章を書くことに慣れさせる。「読み」に関しては、授業中に音読をさせたり、家庭学習で復習させたりして、繰り返し学習させ習熟させる。		
	算数	児童がICT機器を使って発表する機会を多く設け、自分の意見を発表するだけでなく、友達の考えを読み取る活動や、友達の考えを生かして自分の考えを深める活動を意識的に行うことで、数学的な思考を深めることができている。	1年生で習得すべき足し算、引き算の計算が確実に習得できていない児童がいる。日本語の習得に課題があることから、文章題を理解することが難しい児童がいる。	新しい単元の学習と合わせて、既習学習の復習をさせる。ベーシックタイムや授業の初めに復習の時間を設け、課題のある児童には個別に対応する。		
3	国語	調学力調査でも登場人物の気持ちを読み取ることに課題が見られた。説明文の読解は向上した。漢字の習得も向上したが、習熟が不十分な児童もいる。自分の考えを記述することに課題が見られる。	日本語国際学級に通級している児童もおり、日本語の習熟度の差が大きく、二極化している。	写真や図を用いて、理解が深まるような授業を展開していく。自分の考えを正しく伝えられるように、短作文に取り組んでいく。日々の漢字学習と小テストで、漢字の定着を図っていく。		
	算数	調長さやかさの単位や大小関係に課題があった。既習事項について繰り返し指導し、定着を図る必要がある。	1桁のたし算、ひき算、九九の定着に課題がある児童がいる。また、時刻を読めない児童がおり、既習事項の習得が必要である。	たし算、ひき算、かけ算の50マス計算に取り組んでいく。既習の内容を復習しながら、3年生の学習を進める。		
4	国語	週3回の漢字テストを継続したり、文章を書く上で習った漢字を使ったりするよう繰り返し指導してきた。調学力調査では漢字の読み書きに課題があった。2年生の時に習った漢字を忘れていたことも分かった。	文章を書くことに苦手意識が強く、既習漢字を使わずに書く児童が多い。また、話し合い活動をスムーズに行えたり、友達の意見を聞いて考えを深めたりする児童が少ない。	既習漢字を使うよう、きめ細かな指導をする。音読と漢字の書き取り宿題を毎日出す。また、友達の意見を聞いて自分の考えと比較する指導を行う。		
	算数	習った単元のプリントを教室後ろに常備し、宿題に出したりテストが終わった児童から取り組ませたりした。調学力調査では、どの項目もおおむね平均値であった。より上を目指していく。	自分の考えを図や言葉で説明できる児童が少ない。	自分の考えを友達に説明する時間を増やし、表現力を増やす。		
5	国語	調学力調査では、「作文」と「物語の内容を読み取る」に課題があった。200字程度の記事は短時間で書けるようになったが、長文を書くことを苦手とする傾向がある。	自分の思いや考えを人に伝えること、文章に書き表すことに慣れておらず、苦手意識をもっている児童が多くみられる。また、言葉の意味を正しく理解することや、漢字の読み書きに課題がある。	授業の中で自分の思いや考えをペアやグループ等少数で伝え合う時間や、文章に書き表す時間を十分に確保することで、伝える力・書く力を伸ばしていく。漢字テストの実施をしたり、宿題で漢字の学習に毎日取り組ませたりする等、繰り返し練習を行い、漢字の定着を図る。		
	算数	調学力調査では、「垂直・平行と四角形」と「折れ線グラフ」に課題があった。それ以外の単元でも習熟に個人差があり、既習事項の復習が必要である。	既習事項が定着していない児童が複数いるため、学習の習熟度に大きな差が見られる。全体的に文章問題になると問題の意味を正しく理解できず、正しい立式ができない児童が多い。また、自分の考えを説明する力を伸ばしていく必要がある。	定期的に既習の内容を丁寧に確認したり、四則計算の練習を行ったりすることで基礎・基本の学力を定着させていく。文章問題では、自分で考える時間を十分に確保し、児童自身が立式や解答の意味を説明できるように、考え方を図や式、言葉で表現できるように指導していく。		
6	国語	調平成28年度の学力調査では、平成27年度の標準スコアが45未満であったのに対し、4つのすべての領域において全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な結果となった。特に、「書く能力」の設問は大きく上昇した。調平成28年度の学力調査では、平成27年度の結果に比べてすべてのスコアが大きく上昇しているものの、「話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる。」や「文章の内容の的確な読み取り」に課題がみられる児童もいるため、東京ベーシックドリル等を活用し個に応じた指導を図る。	来日して間もない児童が多く、日本語の困難な児童が全体の3割を占める。そのため、学習定着並びに習熟度の差が大きい。漢字の読み書き、言葉の意味理解、主語、述語の適切な活用等、学年相応の学習内容の定着が図られていない。	本校の言葉の力、児童の自尊感情に留意する。児童の実態に応じたねらいの明確化、習熟・活用の調和のとれた授業展開、振り返りの位置付けによって、深い理解につなげていく。また、保護者の協力を得ながら家庭学習の定着を図る。		

	算数	<p>調平成 28 年度の学力調査では、すべての観点において全国の平均を上回った。特に、「関心・意欲・態度」及び「数学的な考え方」は大きく上昇し、大変良好な結果となった。</p> <p>調平成 28 年度の学力調査では、平成 27 年度に比べて標準スコアが上昇した。最小公倍数の理解や小数の除法については、児童の習得・活用において差が生じているため、少人数担当と連携を図りながら、個に応じた指示発問、具体物などの使った視覚的操作的な教材の工夫が必要である。</p>	<p>全体的に既習事項が定着しており、課題の理解も早い。計算するスピードも比較的早い。クラス全体の中での習熟度の差が大きい。立式したり、答えを出したりすることができる児童は多いが、自分の考えを図や言葉を使って説明できる児童が少ない。</p>	<p>図や言葉を使いながら、自分の考えを友達に説明する時間を増やし、表現力を高められるようにする。単元の復習を定期的にプリント等で行い、学習の定着を図る。</p>		
音楽	<p>意欲的に音楽活動に取り組む姿勢がある。思いや願いはもっているが、それを表現する技能に課題がある。</p>	<p>経験不足や学習進度の遅れがあったり、必要な学習用具がそろわなかったりすることで、学習活動に課題が生じる児童が多い。特に歌唱においては日本語の歌詞や意味の理解が難しい児童が多い。</p>	<p>基礎的・基本的なことは随時復習しながら授業を進めていく。貸出し用の楽器をいくつか用意し、忘れた児童への対応をする。歌詞カードは全てひらがなで、言葉の意味も確認していく。イラストや写真なども用意する。</p>			
図工	<p>意欲的に取り組んでいるが、工夫する力や構想を広げる力が弱い。</p>	<p>工夫を加えながら制作する力、構想やイメージを広げる力に課題がある。</p>	<p>制作の途中の言葉かけを工夫してイメージを喚起し、完成作品の相互鑑賞の機会を増やす中で、友達の工夫などを学ばせる。</p>			
日本語	<p>来日間もなく、ほとんど日本語が話せない児童から、授業についていけるようになった児童まで、日本語の習得の差が大きい。語彙を増やし、正しい表記や文法などの基礎的な言葉の力が身に付くよう指導すると同時に一人ひとりの日本語の習熟にあった指導が必要である。</p>	<p>4 技能（聞く・話す・読む・書く）が、バランスよく身に付いていない。進級し学年や担任が変わり、日本語のクラス替えにまだ対応できず落ち着かない様子が見られる。</p>	<p>実物や図鑑などを使って、語彙の力を高める。1 時間の中に 4 技能を高める学習内容をバランスよく配当し、学習意欲を高める。児童の日本語習熟にあった指導ができるよう、常に教材準備をしっかりと行う。</p>			